

## 使徒行伝9章32-43節 「イエスに倣う奇跡の賜物」

### 1A リダに住む聖徒たち 32-35

1B イエスに倣う信仰 32-34

2B シャロンへの回心の広がり 35

### 2A ヤッファでの福音 36-43

1B 憐れみの賜物 36-37

2B 泣いているやもめたち 38-39

3B イエスに倣う信仰 40-41

4B 皮なめしシモンの家 42-43

## 本文

使徒の働き 9 章を開いてください。私たちは、前回、サウロが復活の主によって捕えられ、迫害者が、主イエスを宣べ伝える宣教者に変えられたことを見ました。けれども、彼が用いられる時はもっと先になります。彼は生まれ故郷、タルソに戻ります。それで、31 節にこう書いてありました。「<sup>31</sup> こうして、教会はユダヤ、ガリラヤ、サマリアの全地にわたり築き上げられて平安を得た。主を恐れ、聖霊に励まされて前進し続け、信者の数が増えていった。」エルサレムにおける弾圧も収まり、広範囲に迫害の手を伸ばしていたサウロもいなくなったので、人々がその散らされたところで教会を建て、信者が増えていきました。

そのような中で、エルサレムの教会の指導者であるペテロが登場します。彼はもはや、エルサレムに留まることなく、巡回する使徒となっていきました。

### 1A リダに住む聖徒たち 32-35

1B イエスに倣う信仰 32-34

<sup>32</sup> さて、ペテロがあらゆるところを巡回していたときのことであった。彼は、リダに住む聖徒たちのところにも下って行った。

リダであります。ロッドとも呼ばれます。エルサレムからは北西 40 キロで、シャロン平原が地中海沿いにありますが、その南に位置します。異邦人が多く住んでいましたが、重要なユダヤ人の町です。ベングリオン空港は以前、ロッド空港と呼ばれていたように、空港がこの町に隣接して作られています。

そして、イエスを信じ、弟子になっている者たちを、ルカは、「聖徒たち」と呼んでいます。日本では、自分たちのことを「信徒たち」と言いますが、韓国の教会ではそのまま「聖徒(ソンド)」と使いま

すね。これは聖書的な呼び名です。主によって聖め別たれた者たちということです。私たちは、みな、そのような者たちなのです。

<sup>33</sup> そこで彼は、アイネアという名で、八年間床についている人に出会った。彼は中風であった。<sup>34</sup> ペテロは彼に言った。「アイネア、イエス・キリストがあなたを癒やして下さいます。立ち上がりなさい。そして自分で床を整えなさい。」すると、彼はただちに立ち上がった。

ここを見ると、イエスの福音宣教と働きととても似ていることが起こりました。中風の人の癒しです。四人の人が、中風の人の床を担いで、屋根に穴を開けて、そこからイエス様のところにつり降ろしましたね。アイネアを見て、イエス様が中風の者を癒やされたことを思ったことでしょう。それで、「イエス・キリストがあなたを癒やして下さいます。立ち上がりなさい。そして自分で床を整えなさい。」と言います。

ペテロに与えられていた信仰は、「主イエスに倣う」ということであつたに違いありません。主が言われました、「ヨハ 14:12 まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしを信じる者は、わたしが行くわざを行い、さらに大きなわざを行います。わたしが父のもとに行くからです。」そして、使徒であることのしるしとして、不思議やしるしがあることをパウロが言及しています。「Ⅱコリ 12:12 私は忍耐を尽くして、あなたがたの間で使徒としてのしるしを明らかにしました。しるしと不思議と力あるわざによってです。」

しかし、主ご自身、そして使徒たちだけでなく、弟子たちにも現れています。七人の執事として選ばれた、ステパノとピリポですが、彼らには、しるしと不思議がともなっていました。「6:8 さて、ステパノは恵みと力に満ち、人々の間で大いなる不思議としるしを行っていた。」「8:6-7 群衆はピリポの話を聞き、彼が行っていたしるしを見て、彼が語ることに、そろって関心を抱くようになった。汚れた霊につかれた多くの人たちから、その霊が大声で叫びながら出て行き、中風の人や足の不自由な人が数多く癒やされたからである。」そして、コリント第一 12 章には、御霊によって、ある人々には奇跡の賜物が与えられるとあり、イエスを信じる者であれば、与えられる賜物でもあります。

しかし、奇跡の賜物や、癒しの賜物が働く時に、信仰の賜物が用いられます。「Ⅰコリ 12:9-10a ある人には同じ御霊によって信仰、ある人には同一の御霊によって癒やし賜物、ある人には奇跡を行う力、」とあります、並んでいますが、関連があるからです。

賜物とあるように、これは、自分が念じるようにして、ふりしぼるようにして信じるから、奇跡が起こるわけではありません。そのように信じて、行動に移すような思いが与えられるから、それを働かせてみる、という感じです。ペテロが、生まれつき足なえの男を立たせましたが、自分の信心深さではないときっぱりと否定しましたね。「3:12,16 これを見たペテロは、人々に向かって言った。「イ

スラエルの皆さん、どうしてこのことに驚いているのですか。どうして、私たちが自分の力や敬虔さによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。…16 このイエスの名が、その名を信じる信仰のゆえに、あなたがたが今見て知っているこの人を強くしました。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの前で、このとおり完全なからだにしたのです。」

逆に言うと、私たちは御霊の賜物を熱心に求め、その中で、今までになかった思い、理性で考えたら、これはとんでもないと思うようなこと、それが、主によって与えられることがあります。それを思いっきり、口に出したり、行動に移したりするのです。奇跡だけでなく、例えば預言の賜物も同じです。与えられた思いを、口にしてみるのです。

## 2B シャロンへの回心の広がり 35

<sup>35</sup> リダとシャロンに住む人々はみなアイネアを見て、主に立ち返った。

そしてこのことを通して、リダだけでなく、シェロン平原にいる人々も、主に立ち返りました。福音が、より広い地域に広がっています。

## 2A ヤッファでの福音 36-43

### 1B 憐れみの賜物 36-37

<sup>36</sup> またヤッファに、その名をタビタ、ギリシア語に訳せばドルカスという女の弟子がいた。彼女は多くの良いわざと施しをしていた。<sup>37</sup>ところが、そのころ彼女は病気になって死んだ。人々は遺体を洗って、屋上の部屋に安置した。

ヤッファは、旧約時代は地中海の主な港として使われていたところで、ソロモンの神殿の、レバノンから運ばれてきた杉材はここに陸揚げされてエルサレムに運ばれました。リダから約 18 キロ北西にある町で、今はテルアビブに隣接しています。

そしてそこに、タビタという人がいました。他の人々と同じように、彼女はヘブル語の名前だけでなく、ドルカスというギリシア語の名前もありました。ペテロもそうですね、ペテロはギリシア語ですが、ヘブル語はケファという名前です。バルナバは、ヘブル語名はヨセフですが、ギリシア語がバルナバです。それぞれがヘブル語、ギリシア語、そしてローマのラテン語の名前も持っている人たちもいます。ドルカスは、カモシカという意味です。そしてヤッファも、リダと同じように異邦人の多い地域です。

そして、彼女は「多くの良いわざと施しをしていた。」とあります。ローマ 12 章に、賜物の列挙の中に「慈善を行う人(12:8)」があります。人々にいろいろな良いわざをするのに賜物がありました。超自然的な現れ方をする賜物もありますが、こちらは、とても地味です。けれども、どちらも御霊か

らの賜物です。そこには、神の恵みが満ちます。賜物はカリスマですが、恵みがカリスです。恵みが具体的に現れる時に、それが、賜物が用いられた時です。

#### 2B 泣いているやもめたち 38-39

<sup>38</sup> リダはヤッファに近かったので、ペテロがそこにいると聞いた弟子たちは、人を二人、彼のところに遣わして、「私たちのところまで、すぐ来てください」と頼んだ。

このことは、エリシャのことを思い出しますし、また主ご自身のことを思い出します。エリシャは、シュネムの女がいて、彼女の子が死んでしまい、その子をエリシャの部屋のところに寝かせて、急いでカルメル山にいたエリシャの所に行きました。イエスの場合は、ヤイロです。会堂司でしたが、娘が重い病気にかかり癒してほしいとお願いしました。ところが途中で死んでしまいました。けれども、イエスが行き、死んでしまった娘を生き返らしました。

#### 3B イエスに倣う信仰 40-41

<sup>39</sup> そこで、ペテロは立って二人と一緒に出かけた。ペテロが到着すると、彼らはペテロを屋上の部屋に案内した。やもめたちはみな彼のところに来て、泣きながら、ドルカスが一緒にいたころ作ってくれた下着や上着の数々を見せるのであった。

もうすでに人々は、ドルカスが死んでしまったことを悼み悲しんでいる状態にあります。しかし、ペテロは主のことを思い出します。

<sup>40</sup> ペテロは皆を外に出し、ひざまずいて祈った。そして、遺体の方を向いて、「タビタ、起きなさい」と言った。すると彼女は目を開け、ペテロを見て起き上がった。<sup>41</sup> そこで、ペテロは手を貸して彼女を立たせた。そして聖徒たちとやもめたちを呼んで、生きている彼女を見せた。

イエスもヤイロの娘を立ち上がらせるときに、家族とペテロ、ヨハネ、ヤコブの弟子以外を外に出しました。そして、「タリタ、クミ」(少女よ、起きなさい)と言われました。ペテロは今、「タビタ、クミ」と言われています。とても音が似ていますね。ペテロは、やはり、主ご自身を真似ていたのです。そこに、ペテロは信仰を働かせました。

#### 4B 皮なめしシモンの家 42-43

<sup>42</sup> このことがヤッファ中に知れ渡り、多くの人々が主を信じた。

ヤッファにおいても、主を信じる人々が多く起こされました。そして大きな前触れのような最後の一節があります。

<sup>43</sup> ペテロはかなりの期間、ヤッファで、シモンという皮なめし職人のところに滞在した。

ペテロは、人々の持っていた壁と境界線を越えたところにいました。皮なめし、ということは、死体を取り扱っている職業です。律法では、死体に触れれば汚れるとされています(レビ 11:40)。汚れた職業と考えられていました。

そこにかかなりの期間、滞在していました。ペテロが、自分も気づかぬうちに、キリストの平和の福音の使者として、壁を崩して架け橋になっていたのです。リダやヤッファは異邦人の多い町で、皮なめし職人シモンのところにいるということです。民族の壁が壊れて来ていますし、ここでは、宗教的なユダヤ人とそうでない人々の垣根や壁を越えて、神が動かしておられることを見ます。そして 10 章は、ローマ人の百人隊長、コルネリウスの一家に福音を伝えるという出来事が起こるのです。

ヤッファが、どのような町であったかを思い起こす必要があります。そこで、ヨナがニネベに行き、アッシリア人たちにみことばを語れと命じられた所です。しかし、御顔を避けてタルシシュ行きの船に乗り込みました。そして、船から投げ込まれ、大魚の中に三日三晩いたのです。それから、ニネベに行きました。彼は、ユダヤ民族への愛、同胞への愛から、アッシリアに行くのを始め、拒んだのです。けれども、その壁を壊すように命じられたのがヤッファだったのです。ペテロも同じように、ヤッファで幻を見て、初めは、屠って食べなさいと命じられたことを拒みました。

こうやって主は、二人の使徒を異邦人宣教へ整えておられました。一人は、タルソというギリシア文化の強い町で生まれ育った、律法に熱心なサウロを異邦人宣教に召したこと。もう一人は、ユダヤ人への宣教が主なのですが、幻によって異邦人の住んでいるところに近づかせていることです。こうして、主イエスは、初めに聖霊の約束を与えられた時のように、ユダヤとサマリア、そして地の果てまでご自身の証しをさせようとしています。

みなさんにも、次の福音の戸を開くように、神が招いておられるかもしれません。御霊の導きに心を任せてみましょう。そして、御霊の賜物を熱心に求めてください。与えられた、信仰を働かせてください。主は恵みを現わしてくださいませ。